

令和4年度協働事業実施に係る
提案の審査について

答 申

令和4年3月23日

水戸市協働推進委員会

目 次

令和4年度協働事業実施に係る提案の審査

審査結果及び全体講評	1
各事業の概要及び委員会意見	2
選考過程・基準	8
委員名簿	9

令和4年度協働事業実施に係る提案の審査

審査結果及び全体講評

【 審査結果 】

本委員会における審査の結果は、次のとおりである。

推薦する事業

- 市民参画による道路等パブリック空間の有効活用検討事業
- 介護助手養成 ちいすけ水戸
- 公園にハートいっぱいのを蒔こう
- 水戸の観光土産品付加価値創出事業
- キッズトレイルランニング大会

【 全体講評 】

令和4年度水戸市協働事業の公募に対しては、5件の協働事業が提案され、2月28日にプレゼンテーションが実施された。

今回の募集に対し、前年度からの継続が4事業、新規が1事業であった。新規の提案事業は、水戸の観光土産品の魅力あるパッケージデザインを制作する活動で、例年、福祉や教育といった分野が多い中、観光、商業の分野での提案事業は新鮮であり、様々な主体が、公益的な活動に取り組み、社会全体で協働によるまちづくりを進めていこうという、意識の広がりを感じることができた。

しかし、新型コロナウイルス感染症感染拡大の影響を受け、本年度は新規事業の提案も少なく、事業展開が困難な事案も見受けられた。今後はコロナ禍にあっても、実施可能な事業展開を検討し工夫すると同時に、コロナ収束後の新しい生活様式を念頭において新たな視点から協働を計画し、展開することが求められる。また、大規模イベント開催ありきでの準備ではなく、年度内において、複数回にわたる小規模イベントの開催及び人数制限など、確実に事業を実施するための検討や新たな手法の創出を望みたい。

提案のあった事業のうち、「介護助手養成 ちいすけ水戸」については、協働事業提案制度を活用した協働事業としては、令和4年度が最終年度となることから、市の担当課とともに、長期的な展望を持って事業継続に向けた更なる内容の向上に取り組み、今後も、他の協働事業の模範となっていきたい。また、今回推薦する新規事業については、期待する一方で、多くの委員から、活動計画が具体性に欠け、十分検討を尽くしたとはいいがたいとの指摘があった。したがって初年度の活動を開始するにあたり、既存の計画にこだわることなく、計画全体を再検討した上で活動に取り組まれない。提案団体と市担当課とのコミュニケーションを密にし、事業目標や課題の共有に努め、連携や協力を図った上で、活動に臨んでいただきたい。

いずれの事業についても、実施にあたっては、提案団体と市の担当課において十分に協議し、補助金の適正な運用及び予算の適正な執行を心掛け、より効率的で透明性のある事業運営に努めていただきたい。併せて、市民ニーズの把握に努めるとともに、適切に事業へ反映させるなど、市民の

目線に立った事業運営を進めてほしい。コロナ収束後の社会の変化に応じ、今後も、様々な分野において、市民活動団体と市が、お互いの特性を生かしながらパートナーとして事業に取り組むことで、相乗効果が生まれ、市民と行政との協働によるまちづくりが更に発展していくことを期待したい。

各事業の概要及び委員会意見

提案事業名	市民参画による道路等パブリック空間の有効活用検討事業	推薦する (246 点)
提案団体 NPO 法人セカンドリーグ茨城	市の担当課 泉町周辺地区開発事務所	
事業の概要	まちを体験するイベントやワークショップ等を通し、泉町のパブリック空間活用の方策等を、計画段階から市民協働により検討を進める。事業運営にも、市民の参画を促すことで、市民の地元に対する愛着を育み、持続的で魅力的なまちの形成につなげていく。令和4年度は、コロナ禍においての感染対策を施し実施する。 1 みち遊び、ストリートパーティの開催 2 Farmers Market の開催 3 市民によるプロジェクトの立ち上げ	
委員会意見	本事業は、道路等パブリック空間の有効活用という行政課題に対し、まちを体験するイベントやワークショップ等を通じ、計画段階から市民協働による検討を進め、魅力的なまちを形成することを目的として提案された事業であった。令和3年度は新型コロナウイルス感染症感染拡大により、思うように事業が展開できず苦慮されたかと思うが、来年度はコロナ禍においても実現可能性の高い屋外型の取組みを中心に実施し、行政課題の解決に向け、みち遊びをはじめとした様々な事業を展開し、幅広い世代のよりリアルな意見を取り入れながら、魅力的なまちづくりに取り組んでほしい。 一方で、新市民会館建設のため、周辺道路の工事が本格的に開始されることから、市道封鎖によるみち遊びにとどまらず、南町自由広場を利用するなど、公共空間の使い方について十分に検討いただき、有効な活動としていただきたい。 本事業をきっかけとし、泉町地区の道路等パブリック空間の有効活用が促進され、市民の意見が反映された魅力的なまちが形成されることを期待する。そして、本事業が市民参画によるまちづくりのモデル事業となることを期待する。	

提案事業名	介護助手養成 ちいすけ水戸	推薦する (335 点)
提案団体 特定非営利活動法人ちいきの学校	市の担当課 介護保険課	
事業の概要	介護職が専門職として専門性の高い業務に専念できるよう、アクティブシニア層を対象に、介護職の周辺業務（話し相手や軽作業等）を担う「介護助手」として育成，就労を促し，介護サービスの質の向上につなげる。また，アクティブシニアが社会参加することで，心身の健康維持を図り，「地域で支えるいきいき健康とあんしん長寿」の実現をサポートする。 1 研修会の開催（5回 受講者ニーズに合わせて最大6回開催） 2 介護事業所とマッチング作業など	
委員会意見	本事業は，提案団体と介護保険課が連携し，アクティブシニア層を対象に，介護職の周辺業務を担う「介護助手」を育成，就労を促すことでシニア層の健康づくり，介護人材の育成に取り組む本事業は，相互の取組を補完することができるものであり，協働による効果が高い活動であると考えられる。 令和2年度から継続で事業を実施し，就労希望者と事業者のマッチングについても滞りなく実施されており，2年間で16名が介護助手として就労できたことは評価したい。現在の高齢社会においてアクティブシニア層の社会参画は必要不可欠であるとともに，福祉分野における労働力不足も顕在化しているなか，大いにニーズのある事業である。 協働事業提案制度を活用した協働事業としては，令和4年度をもって最終年度となるが，協働事業終了後も介護サービス向上と活力ある地域を実現する一助となるよう，自主財源による活動においても，引き続き他の模範となることを期待したい。	

提案事業名	公園にハートいっぱいの種を蒔こう	推薦する (265 点)
提案団体 NPO 法人 Happy リレーいろいろ	市の担当課 公園緑地課	
事業の概要	公園にて、子ども達とオセロや将棋などレクリエーションが行える場を設け、様々な年代の方が訪れるきっかけ作りを行う。また、公園に集まる高齢者と共に、フードバンク、おもちゃバンクの実施、低価格で提供するカフェの運営、公園で遊ぶ子どもの見守りなどの社会貢献活動を通して、公園と地域をつなぎ、多世代交流が図れる公園づくりを目指す。 1 おもてなしとトレーニングができる公園 子ども学校・スタートル 2 あったらしいな いろいろ教室・はじまるくん。(学校保育, 放課後デイサービス, フリースクールなど学習支援教室) 3 予防・希望プロジェクト (防災啓発活動) 4 まごころからの社会貢献活動・まごころエネチャージ (フードバンク水戸フードロス啓発活動, 地産地消など) 5 公園見守り子ども食堂 + はじまるくん 観光 PR・観光案内 6 ゴミ拾いやトイレ掃除など美化活動	
委員会意見	本事業は、千波公園・少年の森を拠点として、公園と地域をつなぎ、多世代交流を図る公園づくりを目指す提案を基本としながら、これまでの活動対象をさらに子どもに向け、子どもたちの居場所作りを目的としている。 令和4年度は事業継続2年目となり、リピーターをはじめ、多くの方からのニーズがあること、また、活動への熱意があることは評価するが、事業内容が多岐に渡り、活動を継続していくことが可能であるか不安面が大きい。 令和3年度に実施された子ども食堂や清掃活動などに引き続き力を入れるなど、多岐に広がった事業内容の整理をするよう検討いただきたい。特に、学校保育、放課後デイサービス、フリースクールについては資格が必要であるうえに、人材確保も重要となるため、再検討いただきたい。 本事業の実施にあたっては、事業計画の再検討のうえ、効率的かつ適正な事業運営を図るとともに、本事業をきっかけとし、身近な公園と地域のつながりを深め、子どもたちが健やかに育つ魅力的なまちが形成されることを期待する。	

提案事業名	水戸の観光土産品付加価値創出事業	推薦する (252 点)
提案団体 常磐大学地域連携センター	市の担当課 観光課	
事業の概要	ポストコロナ時代の水戸の観光土産品に付加価値を創出することで、観光土産品の魅力向上と水戸市のイメージアップを目的に、産学官が連携し、観光土産品の魅力あるパッケージデザイン制作に取り組む。 ・水戸の観光土産品付加価値創出ワークショップ ・アンケート調査 ・SNS活用 ・事業報告書	
委員会意見	本事業は、水戸の観光土産品について、近年の SNS 普及や、コロナ禍におけるネット通販利用者増加等を踏まえ、パッケージの刷新に着眼し、水戸の魅力向上を目指す提案である。行政としても、優良土産品として登録し、推奨することをはじめ、観光事業の発展を目指し、各施策に取り組むなか、学生の若い視点から観光分野において斬新な方策を探ることは評価する。 しかしながら、現段階においては事業計画や収支計画について、具体性に欠けており、事業計画を再検討のうえ、事業の効率的な運営をするよう検討いただきたい。商品の特徴やストーリー性を打ち出すことも商品の販売促進及び売上向上につながるため、パッケージのみにこだわるのではなく、魅力向上に効果的な事業展開を行うよう再検討いただきたい。 本事業の実施にあたっては、関係機関との連携を図るとともに、事業内容の再検討及び効率的な運営方法を見直し、大学生が主体となって活動に加わることで、新たなモノづくりを生み出す力に期待する。	

提案事業名	キッズトレイルランニング大会	推薦する (245 点)
提案団体 株式会社ナムチェバザール	市の担当課 農政課	
事業の概要	貴重な地域資源である森林公園の自然環境をより身近なものとして、子どもたちの教育・健康増進に活用していくために、トレイルランニング大会を開催する。 また、トレイルランニング大会の開催を通じ、公園設備だけではない環境資源としての大きな魅力を子ども達へ伝え、地域資源としての魅力を広くアピールし、優れた環境を次世代へつないでいく礎を築いていく。 1 キッズトレイルランニング大会の開催	
委員会意見	本事業は、森林公園の持つ豊かな自然環境を活用して、トレイルランニング大会を開催し、市民の教育・健康増進に寄与することに加え、地域資源としての魅力を広く発信することを目的としており、先見性や独創性については高く評価できる。しかしながら、事業計画や収支計画について、具体性に欠ける印象が残るため、事業の実施にあたっては、開催規模の再検討及び効率的な事業運営を心掛けていただきたい。 また、新型コロナウイルス感染症感染拡大の影響を受け、令和2年度、3年度ともに活動が実施できていないことが残念である。参加対象の多くが子どもであることから、大会開催に慎重にならざるを得ないのは、十分理解できるが、一方で、確実に事業を実施するために、人数制限やコース短縮等の規模を縮小した開催が可能かどうかなど検討いただきたい。また、提案当初のトレイルランニング大会開催内容ではなく、コロナ禍、あるいはコロナ収束後にあっても、社会や環境の変化に応じた活動の可能性を探り、確実に開催されるよう十分に検討いただきたい。 本事業をきっかけとし、森林公園という豊かな自然環境の魅力が再認識され、広く市民が親しむことができる場所となることを期待する。そして、本年度こそ本事業の実施がかなうことを期待する。	

選考過程・基準

【選考過程】

協働事業提案書をもとに、2月28日に実施されたプレゼンテーションにおいて、事業の概要や協働による効果、役割分担、収支計画などについて、提案団体から説明を受けた。また、提案団体及び市の担当課に対して、委員による質疑応答を行った。

その後、全体での審査において、全委員の総合得点をもとに、各提案事業について、公共性や協働の必要性などの面から、協働事業として実施すべきか否かについて審査した。また、効率性や役割分担など、事業に取り組むに当たって、提案団体と市の担当課がさらに協議を深めべき事項について意見した。

【選考基準】

提案書類とプレゼンテーションをもとに、8つの審査項目に沿って採点した。各委員の持ち点を40点とし、全委員の採点を合計した総合得点を審査の基礎とした。

また、今回の審査では、提案団体のスキルアップと、より質の高い事業提案を促進するため、総合得点の6割にあたる240点を推薦に値するかどうかの基準として設定した。

なお、提案団体に所属する、または密接な関係にある委員がいる場合、公平性の観点から、当該提案の事業の審査は行わず、他の9名の委員による採点の平均点を加算して、得点を調整することとした。

審査項目及び審査の視点（40点満点）

審査項目	審査の視点	配点
先見性・独創性	新たな着想や創意工夫があるか	5
事業の公共性	不特定多数の利益，社会全体の利益につながるか	5
ニーズの理解	社会的課題や市民ニーズをとらえているか	5
協働の必要度	協働による相乗効果が期待できるか	5
事業の将来性	成果の活用や波及効果など将来展望が明確か	5
手段の効率性	労力や経費などの見積りが適切か	5
役割分担	自立性を尊重し，お互いの長所を生かしているか	5
実現可能性	自己資金の確保や企画内容が実現可能か	5

水戸市協働推進委員会委員名簿

氏名	所属等	組織区分	備考
委員長 金本 節子	茨城大学名誉教授	学識経験者	出席
副委員長 大野 寛	認定NPO法人茨城NPOセンター・commons 事務局長	NPO代表	出席
笹瀬 佐代子	常磐短期大学 キャリア教養学科准教授	学識経験者	出席
谷萩 美智子	水戸市ボランティア連絡協議会 副会長	ボランティア 団体代表	出席
大竹 隆志	水戸市住みよいまちづくり推進協議会 常任理事	コミュニティ 団体代表	出席
鹿倉 よし江	水戸女性会議 副会長	女性団体代表	出席
山辺 太	水戸商工会議所 事務局長	関係団体	出席
浅川 宗典	水戸青年会議所 理事長		出席
羽石 英司		公募市民	出席
大谷 一宏			出席